

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. 125

エントリー学校名：

広島大学附属東雲小学校

活動名：

子どもと創るチーム東雲  
 ～コロナ禍における縦と横の繋がり～

解決すべき課題：

本校ではこれまで、学年間の「縦の繋がり」と単式・複式・養護の学級間の「横の繋がり」を大切にしてきた。しかし、コロナが流行したことで、児童同士の関わりが制限（ペア・グループ学習の時間削減、遠足、運動会、宿泊学習の中止等）されることとなった。そのような中で、児童同士、そして児童と教師が繋がり続けるために、学校は何ができるのか、何をすべきなのか、新たな課題に直面した。

目標・方針：

【目標】コロナ禍においても、学年間の「縦の繋がり」と学級内や学級間の「横の繋がり」を保ち続け、共生社会に生きる主体として、自立的・協働的に学び育つ児童を育成する。

【方針】本校の強みである①教師間・児童間の強い連帯感、②教師の実践の豊かさを生かしなが、弱みの一つである縦と横の繋がり の形骸化を防ぐ。そして、目標を達成するために、コロナ禍における休校中と分散・通常登校中での「児童同士、そして児童と教師が繋がり続けるための戦略」を実施する。

活動内容：

目標（ミッション）を達成するために、「チーム東雲」を実現しながら、主に以下の活動を行った。

- 〔休校中〕
- ①児童と教師が繋がることができる教師からの応援動画メッセージの発信【写真1】
  - ②ネットを通じた学年・教科毎の授業ビデオ（10分程度）の発信【写真2】
- 〔分散・通常登校中〕
- ①ホワイトボードなどを使い、同じクラスの友達へ手紙を送り合う活動【写真3】
  - ②6年生が遊びを企画し、1年生と「夏祭り」を実施【写真4】
  - ③創立記念日（令和2年10月24日）に各クラスから全校へ活動内容の発信【写真5】

活動の成果：

- 児童と教師一体の「チーム東雲」の実現を通して、新たな縦と横の繋がり の形を発見することができた。
- ①休校中の教師の様々な発信により、児童そして保護者からの信頼を得ることができ、児童同士、そして児童と教師間の繋がりを保ち続けることができた（児童の反応、保護者のメールアンケート結果より）。
  - ②児童が縦と横で繋がる意味を感じながら様々な活動を企画し、交流を図ることを通して、これまでの縦と横の繋がり の形骸化を防ぐことができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・コロナ禍であっても、「チーム東雲」として様々な活動（教師一人一人の温かい言葉が詰まった応援動画メッセージの発信、クラスの友達への手紙の送り合いなど）を通して、児童同士、そして児童と教師間の繋がりを保ち続けることができた。
- ・制限された中での繋がり方を「チーム東雲」として模索することを通して、形骸化していた活動の意味を捉え直し、行事（例えば、創立記念日）の在り方、進め方を改善し、新たな活動をすることができた。



写真1 応援動画メッセージ「東雲 SMILE」の一場面

写真2 学年・教科毎に発信した授業ビデオの例

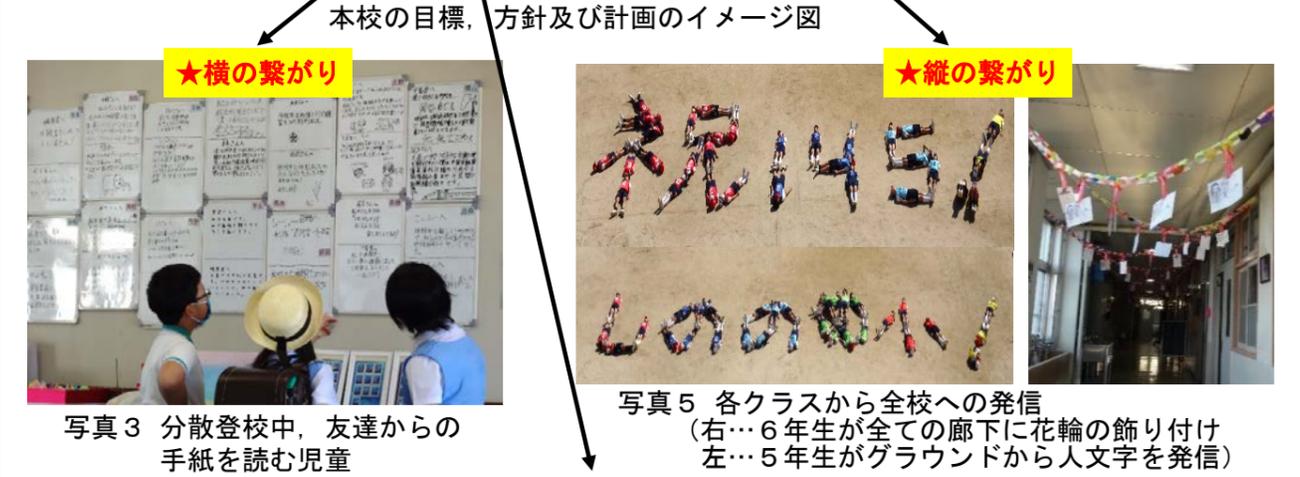
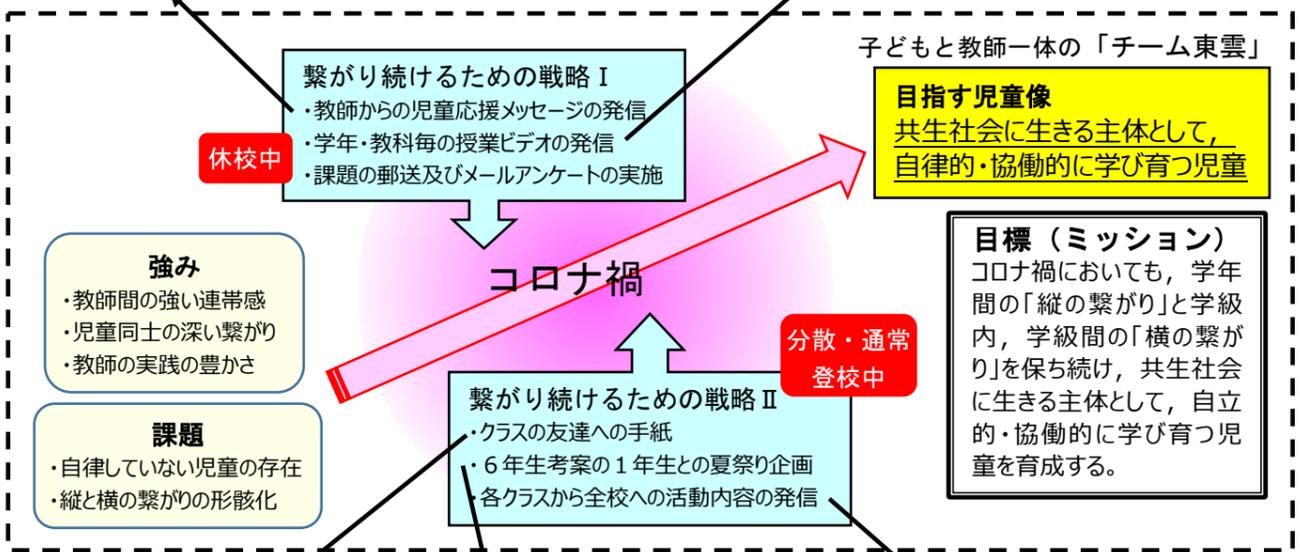


写真3 分散登校中、友達からの手紙を読む児童

写真4 6年生考案の1年生との「夏祭り」→

写真5 各クラスから全校への発信  
 (右…6年生が全ての廊下に花輪の飾り付け  
 左…5年生がグラウンドから人文字を発信)